

群 教 七	G09 - 02
	平16.221集

意欲的に英語で表現しようとする態度を 育てる指導の工夫

— 学習支援教材の作成とその活用を通して —

特別研修員 笹 達一郎（勢多郡東村立東中学校）

《研究の概要》

本研究は、学習支援教材の作成とその活用を通して、意欲的に英語で表現しようとする態度を育てる指導の工夫を行ったものである。具体的にはウェブページを活用した学習教材を作成し、音読練習やビデオ動画を使った会話練習をしてビデオ英会話作品を完成させ、ウェブページで発表する活動を行った。

【キーワード：英語—中 英会話 表現活動 教材・教具 コンピュータ ウェブページ】

I 主題設定の理由

今日においては、経済、社会の様々な面で国際的な相互関係が深まっている。このことを背景に、21世紀を生き抜く子どもたちは、国際共通語としての英語のコミュニケーション能力を身に付けることが求められてきている。学習指導要領でも、実践的コミュニケーション能力を育成することを目標とし、英語による表現活動の重要性を示している。ところが英語の授業においては、基本的な学習内容の定着の度合いに生徒間で差が大きく、表現活動に困難を感じる者も少なくない。表現活動における個に応じた指導をより充実させ、意欲的に英語で表現しようとする態度を育成する必要があると考える。

生徒の実態をみると、将来英語を聞いて理解したり、話せるようになりたいという願いを共通してもっている。特に、英語に強い興味や関心をもっている生徒は、英語による発表に積極的であり、すすんでALTと会話しようとしている。しかし、他の生徒においては、英語で表現する活動に対して消極的な様子が見られる。アンケート調査によると、「英語を正しく音読することや話すことに自信がない」ことが主な理由であった。これまでの英語の授業を振り返ると、一斉指導による活動が中心であり、単語を正しく発音したり、強勢やイントネーション、区切りに気を付けて文を読むことができない生徒に対する個に応じた支援が不十分であった。また、英語による発表においても、与えられた英文を読む活動が多く、生徒が自分で内容を工夫する活動が不足していたため、英語で表現することの楽しさを味わうことができず、英語学習に対する関心・意欲を高められなかった。このような現状を改善し、習熟の程度による学習ペースで音読練習に取り組んだり、興味をもちながら楽しく英語学習ができる手だてを工夫することで、生徒は意欲的に英語で表現しようとするようになると思う。

本研究は、コンピュータを用いて学習支援教材を作成し、活用することを図った。この学習支援教材は、リーディング・セクションとスピーキング・セクションの2つのセクションから成り立っている。リーディング・セクションでは、生徒が英文のモデルリーディングを聞きながら、自分の音読を音声ファイルとして録音・再生しながら音読練習できるように工夫した。また、生徒は支援ページを参考にして、英文の仕組みについて説明を聞いたり、内容についての理解を確認したりすることができる。スピーキング・セクションでは、支援ページの表現を参考にしながら、ビデオを見て英語で応答し、その会話を録音して英会話ビデオ作品を作り、できあがった作品を互いに鑑賞できるように工夫した。練習過程で、指導者は教師用コンピュータから音声ファイルとして保存された生徒の音読や英会話を聞き、助言を与えることができる。この支援教材は、生徒が自分のペースで学習を進められる上、音声の吹き込みと発表が各

自が使用しているコンピュータで行われるため、英語表現活動への抵抗感が少なく、取り組みやすいものであろうと考える。

以上のことから、コンピュータを使った学習支援教材の作成とその活用を通して、意欲的に英語で表現しようとする態度が育つと考え、本主題を設定した。

Ⅱ 研究のねらい

英語で表現する活動において、意欲的に英語で表現しようとする態度を育てるために、生徒が自分の力にあわせて学習に取り組むことのできるコンピュータを使った学習支援教材を作成し、その教材の有効性を授業実践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 モデルリーディングを聞き、自分の音読を繰り返し録音・再生したり、内容理解のための支援ページを活用したりすることのできる学習支援教材を作成すれば、英語の表現力を高めようとする態度が育つであろう。
- 2 ビデオを見て、自分の応答文を支援ページを活用しながら作って録音したり、完成された会話を相互に鑑賞したりすることのできる学習支援教材を作成すれば、英語で表現する楽しさや達成感を味わうことができ、意欲的に英語で表現しようとする態度が育つであろう。

Ⅳ 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 意欲的に英語で表現しようとする態度について

本研究では、英語で工夫して表現することを楽しさを感じたり、単語の正しい発音やイントネーション、声の表現に気を付けながら英語で作品を作り上げることに達成感を感じたりすることを「意欲的に英語で表現しようとする態度」ととらえる。本教材を用いて、自分の力にあわせてモデルリーディングと録音した自分の音読を聞きながら、自分の音読をブラッシュ・アップ（磨きをかける）したり、英語による表現を工夫して英会話ビデオ作品を作成し、互いに鑑賞したりする活動を通して、楽しさや達成感を味わい、意欲的に英語で表現しようとする態度を育てることができると考える。

(2) 学習支援教材の作成と活用について

① 学習支援教材の作成

ア ウェブページについて

本教材は主にウェブページにより構成されている。教材は IBM ホームページビルダー ver.6.5 を用いて作成した。ウェブページを用いることで、学習画面と支援ページの行き来が簡単にできるなどの操作性を高められるほか、画面上のボタンや文字、絵などに音声や動画をリンクさせ、興味や関心を引き出すことができる。

イ 音声について

基礎コースの音源は、指導者用に市販されているモデルリーディングの CD を加工して作成し、発展コースの音源は、ALT の吹込みにより作成した。なお、モデルリーディングの音声は Digi-On Sound ver.3 で読み込み、必要な部分だけを音声ファイル (wave file) として出力・保存し、教材の用途に合わせて利用した。リーディング・セクションの学習ページでは、モデルリーディングのスピードを「とてもゆっくり」「ゆっくり」「ふつう」の 3 段階で聞くことができるように設定したが、これも同ソフトのタイムストレッチ機能を活用して作成した。

ウ 動画について

デジタルビデオカメラで撮影したビデオを、ビデオ編集ソフト Mega DV2 で編集し、Mpeg1 で書出しを行った。書き出した動画は、ウェブページ上に貼り付け、学習者がクリックすれば動画や音声再生されるようにした。スピーキング・セクションでは、生徒が作成した音声ファイルと動画をミキシングするが、これも同じソフトを利用して作成した。

② 学習支援教材の活用について

ア リーディング・セクション

リーディング・セクションの学習画面には教科書をスキャンした画像が掲載されており、新出単語や文をクリックすると、モデルリーディングを聞くことができる。また、この学習画面には、新出言語材料・新出の会話表現について解説された『文の仕組みの説明を聞くページ』、文の意味を確かめられる『本文の意味を確認するページ』、ビデオ動画で ALT と話すことのできる『話して確かめるページ』、文法や会話表現についての問題を解く『確認問題にチャレンジ』の支援ページがリンクされている。生徒は支援ページを活用しながら内容理解を深めるとともに、学習ページを使ってモデルリーディングを聞いたり、サウンドレコーダーを使って自分の音読を録音して聞き直したりしながら、自分の英語をブラッシュアップする。

イ スピーキング・セクション

スピーキング・セクションの学習画面には、ビデオ動画がリンクされている。このビデオを流しながら、生徒はビデオに登場する ALT と会話することができる。学習画面には、英会話ビデオ作品のつくり方を解説した『作品づくりについてのページ』、オリジナルの台本を考えるための表現をビデオで紹介した『参考になる表現のページ』の支援ページがリンクされているが、リーディング・セクションで使用した支援ページも活用することができる。生徒は支援ページを活用しながら、オリジナル台本づくりを行い、この台本を使ってビデオ動画と英会話を何度も録音し、英会話ビデオ作品を作り上げる。学習の最後には、発表用のウェブページで互いの作品を鑑賞する。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような方法で授業実践を行ない、検証する。

(1) 授業実践計画

期 間	平成 16 年 10 月下旬～ 11 月上旬	教科	外国語(英語)
対 象	勢多郡東村立東中学校 1 年 男子 13 名 女子 19 名 合計 32 名		
題材名	オリジナル英会話ビデオ作品を作ろう	時間	8 時間

(2) 抽出生徒について

生徒 S	英語の学習を好んではいるが、学習の進度が遅く、周囲の生徒と同じ進度で学習を進めることが難しい。本教材を通して、自分のペースで繰り返し学習させ、その成果を認めることにより「できるようになる」実感を味わわせ、英語を学習することへの意欲を引き出したい。
生徒 T	英語で話すことに興味はもっているが、発音や文の仕組みの知識に自信がなく、英語を読んだり話したりする活動にすすんで参加していない。本教材を通して、工夫した点や努力した点を賞賛することで、英語で表現する楽しさを味わわせることにより、英語に対する一層の興味・関心を引き出したい。

(3) 検証計画

	検証の観点	検証方法
見通し 1	自分にあつた回数や方法でモデルリーディングを聞いたり、支援ページを活用したりしながら、自分の音読を録音して聞いたりすることのできる学習支援教材を作成することは、繰り返し音読練習し、単語を正しく発音したり、速さや声の表現に気を付けて文を読もうとする態度を育てるのに有効であったか。	・自己評価カード① ・音声ファイル ・観察

見 通 し 2	ALT が登場するビデオ動画を見ながら、英語で応答して会話を完成させ、発表したり鑑賞したりすることのできる学習支援教材を作成することは、自分で英語の表現を工夫して英語を話す楽しさを味わい、意欲的に英語で表現する態度を育てるのに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カード② ・音声ファイル ・観察
------------------	---	---

V 研究の展開

1 題材の考察と目標

題材 の 考 察	本題材は、初めて会った人と英語で挨拶を交わしたり、相手について尋ねる表現を身に付けることをねらいとして設定されている。リーディング・セクションにおいては、このような場面における基本的な表現の定着を図り、スピーキング・セクションでは表現に工夫を加えながら英会話作品を作る活動を通して、意欲をもって英語で表現しようとする態度を育てることができる考える。
目 標	自分の力にあわせて音読練習に取り組んだり、会話表現を工夫して英会話ビデオ作品を作り上げ、互いに鑑賞しあうことを通して、英語で表現することの楽しさを味わう。

2 評価規準(資料編参照)

3 指導計画(資料編参照)

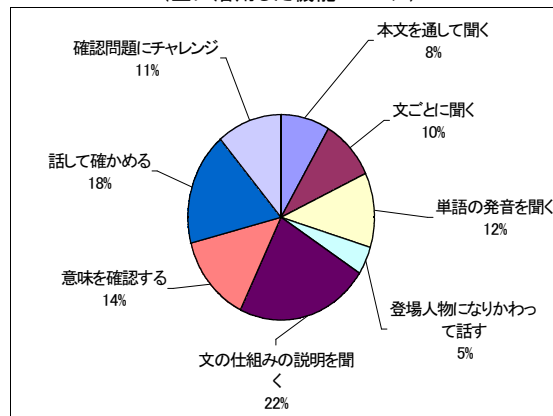
VI 研究の結果と考察

(1) リーディング・セクション

自分にあった回数や方法でモデルリーディングを聞いたり、支援ページを活用したりしながら、自分の音読を録音して聞いたりすることのできる学習支援教材を作成することは、繰り返し音読練習、単語を正しく発音したり、速さや声の表現に気をつけて文を読もうとする態度を育てるのに有効であったか

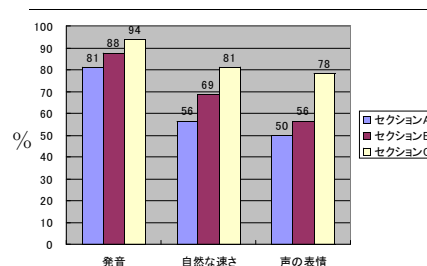
生徒は自分の学習の習熟度に合わせ、教科書本文を扱った基礎コース A、B、C のセクション（以下、基礎 A、基礎 B、基礎 C と標記）教科書本文に発展的な表現を加えた文を扱った発展コース A、B、C のセクション（以下、発展 A、発展 B、発展 C と標記）の学習をすすめた。基礎 A～C は全員が通過し、発展 A を通過した生徒は 17 名、発展 B を通過した生徒は 4 名、発展 C を通過した生徒はいなかった。各セクションを通過した生徒は、全員がメインの学習画面にリンクされたモデルリーディングの音声・動画や支援ページのすべてを参照していたが、そのうち、特に活用したものを挙げさせたところ、**図1**のようになった。生徒からは、『文の仕組みの説明を聞くページ』について、「繰り返し文の説明を聞くことができよかった」、「実際に使われる場面のビデオが分かりやすかった」などの感想が述べられていた。全員が通過した基礎 A～基礎 C において、生徒が音読を録音した回数を見てみると、基礎 A が平均で 7.7 回、基礎 B が 9.3 回、基礎 C が 11 回となり、学習が進むにつれ、より多くの回数の音読練習をしようとする意欲が増していることがうかがえた。音読練習の際には、セクションがすすむごとにより多くの生徒が発音や自然な速さ、声の表現に注意を払って練習に取り組み、モデルリーディング

図1 メインの学習画面や支援ページの活用
(主に活用した機能・ページ)



に近づけようとする姿勢が見られた。特に発音については、図2のように基礎 C の音読練習の中で 94%の生徒が注意を払って音読練習することができた。

図2 音読練習のときに心がけた点(基礎コース)



S 男は最初、コンピュータの活用にあたってやや難しいと感じていたが、2 時間目にはとても使いやすいと答えていた。支援ページの『文の仕組みの説明を聞くページ』では、説明の動画を繰り返し聞き、授業後には「説明を何度も聞くことができたので、"is"の使い方がよく理解できた」と感想を書いていた。また、『話して確認するページ』では、何度も ALT との会話を練習し、「ALT の質問に自然に答えられるようになった」と述べていた。音読回数は基礎 A ～ C で 5 回から 23 回に増え、繰り返し音読する姿が見られた。また、音読の際に気を付けた点として、基礎 A では「発音」だけであったが、基礎 C においては「発音、自然な速さ、声の表現」を挙げており、自分の音読を聞くことで発音の正誤を理解したり、強弱をつけて読もうとする姿勢が身に付いている様子が観察できた〔資料1〕。

資料1 自分の音読が良くなったと思う理由(生徒S)

サウンドレコーダーに録音することで発音の良さを確認することができ、どこが良かったのかを聞き返すことができたので、自分の音読が良くなったと思うようになった。

T 女は最初から「とても操作が簡単」と感じながら学習を始めた。支援ページの『意味を確認するページ』を使ってノートをとったり、『練習問題にチャレンジ』のページで練習問題を楽しそうに繰り返し、「"where"を使った文の意味と答え方がよく分かった」と述べていた。また、教師用のコンピュータでモニターしていた教師から、「"she"と"see"との発音の違いについて助言を受けて正しい発音を試み、教師が賞賛したところ、自分の発音を録音して聞き直し、確認している姿も見られた。音読の回数は基礎 A ～ 発展 A で 4 回から 10 回に増え、音読時に気を付けた点も最初は「発音、声の表現」だけであったが、発展 A においては「発音、自然な速さ、声の表現」の 3 点に注意を払って練習でき、自信をもって音読している様子がうかがえた〔資料2〕。

資料2 自分の音読を振り返った感想(生徒T)

自分の発音の良さを確認することができ、発音の良さを確認することができたので、自分の音読が良くなったと思うようになった。発音の良さを確認することができたので、自分の音読が良くなったと思うようになった。発音の良さを確認することができたので、自分の音読が良くなったと思うようになった。

以上のような結果から、本学習支援教材を用いることにより、音読練習を繰り返して正しく文を読もうとする態度を育てることに有効であったと考える。

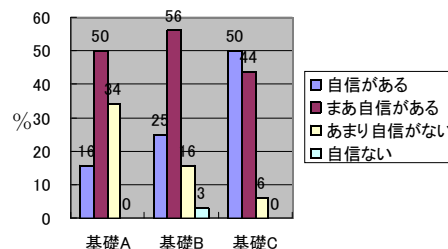
(2)スピーキング・セッション

ALTが登場するビデオ動画を見ながら、英語で応答して会話を完成させ、発表したり鑑賞したりすることができる学習支援教材を作成することは、自分で英語の表現を工夫して英語を話す楽しさを味わい、意欲的に英語で表現する態度を育てるのに有効であったか

生徒は習熟度にあわせて、リーディング・セッションセッションの内容と対応した基礎 A、B、C、発展 A、B、C の学習をすすめた。基礎 A ～ C は全員が通過し、発展 A に進んだ生徒は 8 名、発展 B、C に進んだ生徒はいなかった。各セッションの学習において、生徒は英会話ビデオを作成するためのビデオ動画を視聴したあと、支援ページの表現を参考にしたり、リーディング・セッションの表現を参考にしたりしながら、工夫をしてオリジナルの台本を完成させようとする姿がうかがえた。支援ページの活用は 100 %の生徒が行っており、生徒からは『参考になる表現のページ』で、ビデオで英語の表現を紹介していたのでわかりやすかった、「会話を考えるのに参考になった」などの声が聞かれた。台本作成にあたって、69%の生徒が『リーディング・セッション』を支援ページとして参照したほか、支援ページにはない表現について教師に尋ねる生徒が見られるなど、幅広い表現に挑戦して英語表現に取り組もうとする様子

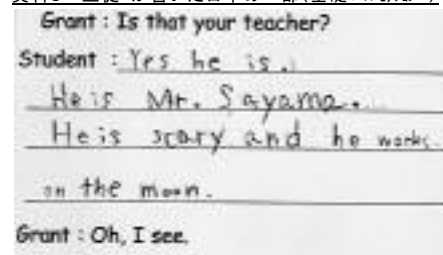
が見受けられた。自己評価においても、「表現の工夫ができた」と答えた生徒は、基礎 A では 69% であったが、基礎 C では 81% に増えた。作品づくりの感想については、図4のように、基礎 A では「作品に自信がある」「まあ自信がある」と答えた生徒が 66% であったが、基礎 C においては 94% に増え、自分の会話作品に自信を深める様子もうかがえた。本教材を使った感想を尋ねたところ、「ぜひまたやりたい」と答えた生徒が 84%、「またやりたい」と答えた生徒が 16% であった。

図4 英会話ビデオ作品の自己評価(基礎コース)



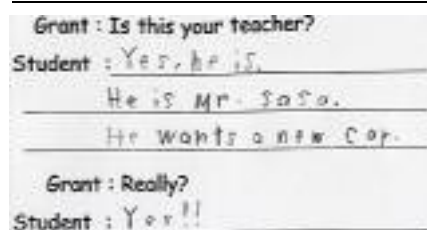
S 男は、最初自分で台本を考える活動に戸惑っていた様子であったが、『参考になる表現のページ』の表現を生かしながら人物紹介の場面で、"He is scary and he works on the moon." (下線部が支援ページの表現) などの英文を書き〔資料3〕、教師が独創性をほめると、熱心に会話の録音を繰り返して完成度を高めようとし、基礎 A ~ C の英会話ビデオ作品について、すべて「自信がもてる」と記入していた。また、鑑賞会の感想では「台本作りは難しかったけど面白かったし、自分の作品が思っていたより良くできていてうれしかった。みんなも工夫していてすごいと思います」と書いていた。

資料3 生徒Sが書いた台本の一部(基礎コースセッションA)



T 女は支援ページやリーディング・セクションのページを開いたり、友達と「こんな文を入れたら面白いよ」などと話したりしながら、楽しんで会話表現の工夫に取り組み、発展 A まで学習を進めた。発展 A の人物紹介の場面では、教師に質問しながら、支援ページにはない "He wants a new car." という表現を台本に書いていた〔資料4〕。鑑賞会では、「自分なりに台本を工夫できたし、作品の中で自分が自然な英語を話していてびっくりしました。自信がついたので、機会があったら外国の人と英語で話してみたいと思います」と感想にまとめていた。

資料4 生徒Tが書いた台本の一部(発展コースセッションA)



以上のような結果から、本学習支援教材を用いることは、工夫して英語を話すことの楽しさを味わい、意欲的に英語で表現しようとする態度を育てることに有効であったと考える。

VII 研究のまとめと今後の課題

- コンピュータを活用し、操作性の高いウェブページを利用することにより、生徒の意欲的な学習活動を促し、英語を話すモチベーションを維持できたり、作品の完成にあたって達成感や楽しさを味わったりすることができたと考える。
- 音読や英会話の練習をする上で、ALT や JTE が音読ファイルを聞いて個々の生徒に具体的なアドバイスを与えることができたのは、台本作りをする際に効果的であったと考える。
- スピーキング・セクションにおける台本作成にあたって、既出の文や単語についての質問が多かった。生徒が自分の思っていることを意欲的に英語で表現できるようにするためには、普段の授業実践の積み重ねの中で基礎的な表現力の育成を図っていく必要があると考える。

〈参考文献〉

- ・平田 和人 著 『中学校英語科のリニューアルと授業デザイン』 明治図書(2002)
- ・鳥飼玖美子 著 『はじめてのシャドーイング』 学研(2004)